

九大が創薬ベンチャー

高齢者失明の完治療法開発

高齢者が失明する大きな原因でありながら完治療法が見つかっていない加齢性黄斑変性（おうはん）の治療薬を開発する九州大で初めての創薬ベンチャー企業が誕生した。医学研究院眼科学に在籍する鍵本忠尚（ニハ）と仲間が結集、年内にも米国で臨床試験を計画している。

加齢性黄斑変性とは、網膜が異常をきたし、ものがゆがんだり暗く見えたりする病気。四十五歳以上の1%がかかるともいわれ、進行すると出血を伴うなど視力が著しく低下、欧米では失明原因の第一位。

このほど設立したアキユメンバイオファーマ株式会社は、鍵本さんが会長兼最高経営責任者（CEO）を務め、中、高校時代の後輩で慶応大在学中にソフトウェア会社を興した山口哲生さん（ニセ）

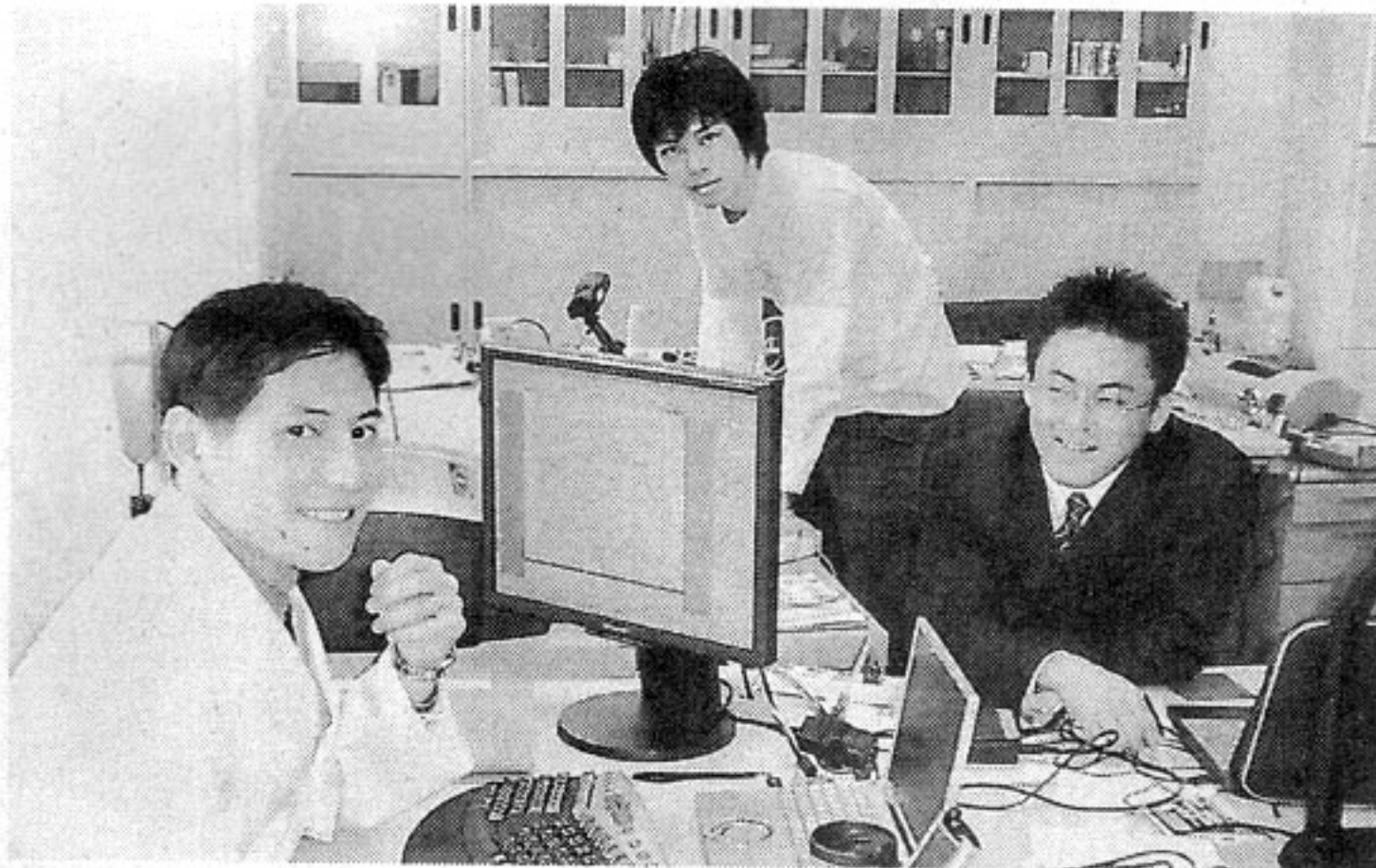
が社長。バイオテクノロジーの研究でも参加し、新薬開発はほぼ完成し、

特許申請や臨床試験の折衝を国内外の機関と進めている段階。糖尿病性網膜症にも効果が期待できるといふ。

大学発ベンチャーとしては、熊本大の技術移転を受け一九九八年に設立した東証マザーズ上場のトランスジェニックス（熊本）が有名。国立大の法人化で、九大も知的財産の事業化やブランド力強化への期待は高まっており、アキユメン社の動向は注目される。

◇ ◇

同社の設立記念セミナー「体内時計のシステム生物学」が二十七日午後五時半から福岡市東区馬出三丁目、九州大馬出地区コラボステーションである。講師は理化学研究所チームリーダー上田泰己氏。無料。092（642）6428。



九大初の創薬ベンチャー企業を設立した鍵本忠尚さん（左）と山口哲生さん（右）ら 二福岡市東区馬出の九州大